

矢野大和新聞

新年のびあつち

謹んで新年のお喜びを申し上げます。今年には本当に穏やかな年でありますよう、心より祈念申し上げます。さて個人事務所を作りまして今年で5年目を迎えました。今年はある意味決断と勝負の年になると思います。口演を主体とする仕事が、まさか5年も続くとは思っていませんでした。当初から仕事を手伝ってくれている岡嶋には、3ヶ月後はどうなっているか分からない

いから新しい仕事を見つけておいて下さいと言っていたくらいですから。今年が勝負の年と言ったのは政治家の夢をどうするか結論を出さなければならぬ事です。来年参議院選がある事は確実ですから、態度を決めなければなりません。「6年前の雪辱を」と言ってくれる方もたくさんいるのは事実ですが、これに答えを出すにはどうしても勇気がある事です。そう遅くない今年中に答えを出します。次に口演回数が増える事が出来るかがやはり勝負です。お陰様で過去4年間は超える事ができました。本人も驚

いています。今年も…会員の皆さん是非力を貸して下さいませ。何よりありがたいことは、全国版CDの第2弾が今年出る事が決まった事です。自主製作を含めると4枚目のCDという事になります。どのくらい売れるかは分かりませんが、「ザ・大分県」というタイトルになりました。今年もやりたい事はやり、やりたくない事にも挑戦します。どうか皆さん、今年一年も宜しくお願致します。近くに私が行った時は声をかけて下さいませ。また皆さまもお近くへお越しの際は、いつでも事務所へお祈り下さいませ。皆さまのご多幸を心よりお祈り申し上げます。

おおいた観光大使

皆さん、信じられない事ですが、12月15日にツーリズム大分（大分観光協会）から「おおいた観光大使」の称号を頂く事になりました。「大分県の魅力を国内外に積極的に発信してもらう」という事が目的のようです。私はとても光栄なことだと思ひ、お受けいたしました。これで変な事(?)が出来なくなりました。ある意味大変ですが、頑張ってみます。ツーリズム大分

友人の会3300人の会
現在150名突破



創刊号
平成24年1月1日
発行：矢野大和事務所
発行責任者：矢野大和



謹賀新年

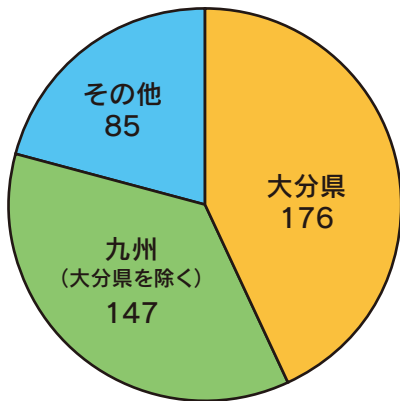


<西会長より辞令を頂く>

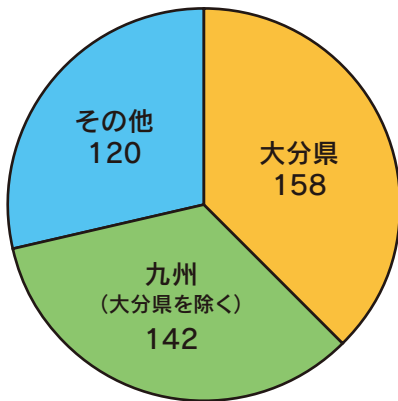
の会長さんは全国に知られる焼酎「いちご」の「三和酒類」の会長の「西太一郎」さんで、その西さんより辞令を頂き、身の引き締まる思いです。しかも第1号というのはありがたい限りです。知事のお骨折しもあつたと聞き、名を汚さぬよう自分の口演活動が少しでも大分の宣伝になるようにがんばってみます。



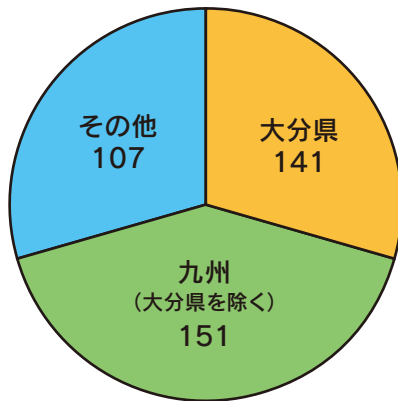
三年間を振り返って



口演数 2011年/年間408回



口演数 2010年/年間420回



口演数 2009年/年間399回



<昨年は子どもの前が多かった>

事務所を作って早5年目を迎えました。ありがたい事にここ4年間は「年間365回の口演」をなんとかキープしていますが、今年はどうなるかわかりません。でも頑張ってやります。まず正月。トヨタ様で私の口演会が始まります。大分トヨタグループ 渡辺社長、本当にありがとうございます。毎年1月5日の仕事初めに私を使っている、毎年本当によいスタートが切れるのはこのトヨタ様のお陰です。ただただ感謝申し上げます。回数的にはやはり大分と福岡が多い事が良く分かります。ほとんどが九州中心の口演会なのに、時々JAGグループ「家の光協会」の方々の配慮により、今まで行った事がない所までよんで頂けるのです。本を書かせて頂いたのにもかもよんで頂いてただただ感謝です。大分、福岡、山口、宮崎は多分全市町村回ったと思います。北九州市、福岡市内の全区も回りますから本当に画期的な事だと思っています。まず福岡県の方々に感謝させて下さいませ。山口県の方々のご負担も本当にうれしいですね。次に多かったのが鹿児島県、長崎



<鹿児島 甌島 中津小にて>

県です。テーマは「人権」が一番多くて、PTA、子育て、健康、地域づくり、観光と続きます。どちらにしても基本は「笑って元気」です。観光大使だったのに、タイトルに「観光」が中々現れないのも面白いですね。人権がテーマの時に私のような「笑い唄」を中心に話すのが珍しいらしく、よく使って頂きますので感謝です。これからも少しずつ新しい唄を見つけなければなりません。九州以外でも私をお世話して頂く方も本当に多くて、いわゆる営業してくれる方が各県にいらつしやいます。本当にありがたいです。その方々はすべて3300人の中に入って下さっています。あんな唄でよかったです仲間の方皆さんも何かの折に使って頂けましたら嬉しく思います。お友達価格というのがございまして、こちらも勉強させて頂いております。(笑)

マスコミに感謝



<長崎放送にて塚田アナと>

選挙後、ほとんどマスコミに載る事がなかった。いわゆる「色」がつかないと思われたからだ。私が5年前の夏に選挙に出た事なんかほとんどの人は忘れているが、マスコミの方は覚えているのだ。だからその「色」のついた間はマスコミが遠慮して取材してくれない。それと「プロ」となったからだと思う。お宮の宮司として生活が出来ていけばいいのだが、それが出来ない。そのせいで氏子に迷惑をかけるのではないから、口演をさせて頂いているのが本音です。ところが昨年はいろいろなマスコミが取り上げてくれた。口演活動でだ。まず「山口新聞」「有明新報」「西日本新聞」「大分合同新聞」「朝日新聞」、ありがたい限りだ。特に、長崎のNBC放送は番組まで作ってくれ

た。ただただ感謝にたえません。ラジオの「あの人、この歌、ああ人生」ではわざわざ私を長崎放送まで招いてくれて、スタジオで20分の番組収録。久々だから焦ってしまったが、このお姉さんがすごく優しくして…。助かった。今年はおおいた観光大使”になった以上はマスコミにも少しは出ないといけないか：「色」を取らないと出してくれないかもしれない。

話し方教室



人前での楽しい話し方。昨年の4月～9月にかけての第1回に引き続き昨年の11月～今年3月も大分合同新聞社の「一人の心を掴む話し方教室」という文化講座を受け持つことになりました。昨年の講座はわざわざタウン教室で月2回計12回講座（受講生6名）。人前で話すことを生業としている者なのにその話を体系的に考えた事はなく、その受講生にどうしたらうまく教える事ができるかという事を毎回考え

る事、そのチャンスを得たということ。私にとっては新鮮でした。6名の受講生は自分たちで忘年会をするまでとなり、とっても仲良かったです。しかも3名が卒業後既に人前で口演を行いました。本当にうれしい限りです。今期もやって下さいとお声が掛り、11月～3月までの10回、しかも今回はわざわざ教室に加えて大分合同新聞社本社の教室の2講座を受け持つ事になり、とても刺激のある教室となりましたお陰さまで現在受講されている方々(15名)もまじめに楽しくやっております。皆さまレベルが高くて私が教えるような事は少なく私が習う事の方が多いです。事実「矢野先生の話しは大したことはないけど、友人ができてネットワークが広がることも楽しい」と好評(?)のようですありがたい事です。

東京タワーイベント

昨年12月11日 東京タワーのイベント「オール大分！絆を深めよう、大分県祭in東京」で東京の空の下、初めてしゃべりました。出来は最悪でした。ただ思い出として心に残りました。このイベントは大分を東京に売り込もうと一昨年始まったもので、私の事務所も協力ができないかとお願いにこられた土井さんという方の熱意に負けて、ボランティアで参加。なんとか私も裏方で参加させてもらいました。個人が公を動かして出来たイベントです。まさか二回目があるとは思わなかつたので二回目があつたのです。一昨年総

合同会として私の事務所のスタッフである松本が採用され、彼女の出来が良かったためにまた昨年も依頼が来たのです。しかも今回は私もステージにあるはめになってしまいました。東京の人に大分のネタが通用するのか。私の癖はどう考えてみても室内でしか受けません。青空のもとでは到底無理。プロの芸人さんのすごさを痛感するのは。東京の方々の視線は冷たく、やはり自分の実力を棚に上げて、受けない自分を守ろうとする自分がいる。昨年を締めくくる大きなイベントだった。

新しい嘶作り

新しいネタもつくらなければなりません。

1月に子どもたちに税金の話(30分)
4月に別府の一気登山の嘶(30分)
6月にザ・大分県のCDのネタ(60分)
11月に県南落語で新作落語を一席
と、今年には新しいお題で話さなければならぬ事もあり、マンネリ化している嘶にどうやって新しい風を入れるか。これは今年だけに限らず、毎年の課題なのですが：今は「日本人の底力」というテーマでしゃべる事が多くなっています。この嘶ももう少し工夫をしないと多くの人々には受け入れてもらえないと思います。とにかく多くの人から口演依頼を頂くためには嘶を新鮮にして行かなければなりません。そういえば「嘶」とは口に新しいと書きますよね。

ブログに書けない こころだけの話

私には子どもが二人います。長女は24歳、長男は21歳。で、どちらも東京で同じアパートに二人で住んでいます。姉の方は本当に運が良く素晴らしい上司に恵まれて、やりがいのある仕事をしています。多分あんなに素晴らしい上司を社会人一年生から見つらうと、婚期を逃してしまうのは確実です。また弟の方は大学3年生で、いよいよ就職活動の始まりです。私の大学時代はただひたすら落語ばかりやっていて、就職の事等全く考えていなかったのが現実です。あの頃はなにかしら仕事がありましたよね。ところが今は違います。日本中就職難だと聞いて私も息子もあせっています。仕事はなんでも良いと思っても、やはり「やりがい」のある事が大切です。その点、娘の仕事に対する情熱は大したもので、授業料を払ってでも使いたい程の上司だという事です。さて私の家が宮司である事は裏面に書いた通りでございますが、息子にはやはりお宮を継いでもらいたいです。そのためには是非大分に帰ってきて欲しい。その旨を息子に言ったら「まだ東京に居たい」と。どこの親も経験する「コマだ」と。何とその時娘のアドバイスがありました。「父さんは貴方の何倍もの人生を歩んでいる。まして貴方の歳には父さんの父さんはいなかった。それでも今まで頑張ってきた。その父さんのアドバイスが最高だと思っ」と娘が言ってくれた。そして息子は十分に帰ってみたいと思ってくれたようだ。いいアドバイスをしてくれた。娘に感謝だ。…なのに娘は「当分は結婚しないでもう少し東京にいたい」とのたまう…

お宮の宮司

いろいろな所へ口演に行くと「本当にお宮の宮司さんですか？信じられない」とよく言われます。本当です。その証拠をお見せします。まず新聞に載ったという事です。大分合同新聞の「大分遺産」という特集記事の中に私が奉職してる鷹鳥屋神社の事が載りました。その記事にちゃんと私の名前が載っていますので、まず信じてください。七三〇年も矢野家が社家です。守っているものから、父が死亡したときに長男である私がどうしても後を継がなければならなくなり、22歳で後をとらせてもらいました。それからが大変な事です。宇目町という町は人口が3000人なのにお宮が55社もあって、しかもこの鷹鳥屋神社が郷社であり、各地区にまた小さなお宮、いわゆる地区の氏神様があつて、宇目町の人はみな二重氏子といって二つの神社の氏子なのです。各地区のお宮は、それぞれ地区内にあつてそれぞれが独立してお祭りをやっていますが、この鷹鳥屋神社は各地区の上にある形の神社の為に、身近な存在から少しづつ遠い存在になりつつあるのです。その宮司なものですから、非常に悩みが多くて大変な訳なのです。七〇〇年以上も続いた神社の境内は、自然林に囲まれて癒しのスポットとなっています。しかもパワースポットなるものになったために、近年は若い人がお参り頂けるようになりました。ありがたい事でございます。シリーズでお宮の事を書かせて頂きたいと思い、紙面を頂くようにしました。まずは新聞にどう載ったか掲載させて下さい。

鷹鳥屋神社の森

合同新聞平成23年6月1日
掲載記事より引用

佐伯市宇目は山の中。ご存じ「宇目の唄げんか」は「山が高うち在所が見えん」と、子守娘の悲哀を歌う。高いと言っても高山というわけではないが、山々はかなり険しく懐が深い。そうした山の一つに鷹鳥屋（たかとりや、または、たかどや）山（693㍎）がある。山頂部に神社が鎮座し、一帯は県指定天然記念物の自然林で覆われる。

典型的な原風景



佐伯市宇目は山の中。ご存じ「宇目の唄げんか」は「山が高うち在所が見えん」と、子守娘の悲哀を歌う。高いと言っても高山というわけではないが、山々はかなり険しく懐が深い。そうした山の一つに鷹鳥屋（たかとりや、または、たかどや）山（693㍎）がある。山頂部に神社が鎮座し、一帯は県指定天然記念物の自然林で覆われる。

の並木となつていている参道をたどると、こま犬の代わりに鷹が迎えてくれる。そして山頂へ。境内林から国有林にかけ、一部にモミの林があるものの、大半はウラジロガシを含むアカガシ林で、亜高木層、低木層にイスノキ、ヤブツバキ、サカキ、ユズリハ、ハイノキなどが生い茂り、常緑樹が優先する。サザンカも自生する。ヤブコウジ、ベニシダなども見かけられよう。常緑広葉樹林は西南日本の典型的な森。いわ

は日本列島の原風景である。民族の祖先たちは、このような森の中で長い年月を経てきた。里の鎮守の森はその名残だろうが、ここにはいまだ手付かずの森があり、「時の重み」を身をもつて受け止め、太古に戻つたと錯覚するし、人によっては神気さえ感じられよう。

神社の歴史も古い。伝説によると、昔、越中立山にいた矢野氏が紀州熊野に移つた際、筑紫（九州）へ行けとの神告を受け、建治元（1275）年、府内で大友氏に仕えた。そこで今度は豊後の南を守れとの命をもらつて宇目に来た時、権現の使いとおぼしき2羽の白い夕方に導かれ、この山にたどり着いたとか。今の宮司は県南落語組合や旧宇目町、佐伯市観光大使を務めたことで知られる矢野大和氏である。

宇目を代表する祭の一つに椿原（つばきはる）祭典がある。鷹鳥屋神社が中心となり、みこしが山を発して中津留の遥拝（ようはい）所まで下り、小野市地区の郷社27社を集めて盛大な祭が開催される。



写真：宮地泰彦